

絆 ～きずな～ vol.1

平成19年10月発行



4月、1年生のみなさんは、ピンク色の桜並木を通り抜け、これから始まる新しい生活に期待と不安で胸をドキドキさせながら、中学校の校門をくぐったことでしょう。早いもので、もう5ヶ月が過ぎましたね。中学・高校共同の入学式では、親子共々、とても緊張したことを思い出します。温かい木のぬくもりが感じられる校舎、環境の整ったピカピカの教室、指導熱心な先生方のもと、勉強できることは、とても喜ばしいことです。『至誠無息』の校訓を胸に、中学・高校の6年間、いっぱい勉強して、いっぱい友達も作って、いっぱい思い出を作ってほしいと願っています。

朝日を背に

自転車のペダルを力強くふみ
学校へ向かう息子の後ろ姿。
朝日が見送る。
風が見送る。
家族が見送る。
新しい発見・楽しい経験を
積み重ねている日々。
今晚も学校での出来事的话题を
楽しみにしている。

1期生が切り開き2期生が歴史を作る

今年の4月から次男が県立川島中学校にお世話になることとなり早3ヶ月が過ぎました。本人は運動部に勉強にと毎日楽しく過ごしているようですが、親は小さな事が気になるもので、ヒヤヒヤしながら毎朝彼が自転車を漕ぐ後ろ姿を見つめています。

県立中学校の設立からいうと、我が子は2期生と言うことになります。親や子が手探りで進んでいるのと同様進行で学校の関係者の皆様も学園の創生期にあるご苦労を重ねながらの毎日を歩んでおられる事と思います。頭の下がる思いで一杯です。

そう言えば、私自身も学園の創生期に関わりがあって、自身の学生生活は8期生で、先輩達から「新しく出来た学校は1期生が切り開き、2期生が歴史を作るものだ。」と言われたことを思い出します。「じゃ僕たち8期生は？」と聞くと。「まっ、後はドンダリの……」等と言う答えが返ってきたものです。そうは言っても私達8期生はそれなりに大変で、気苦労も幾つか有ったように覚えています。母校の今年の新入生は数えて46期生に成るようで、そうすると今度は「伝統」が声高々に言われるみたいです。

私が社会人になって子どもも出来てから国家資格を取るようになりましたが、この研修所が2期生でした。ここでもやはり1期生は伝説の人達で、2期生はその気風を受け継ぎ発展させる役目だと教えられました。

今は県立川島中学校2年生の先輩の皆様も、1年の新入生の皆様も、出来たばかりの学校での生活が他校とどう違うのか、どこが良いのか、どこが足りないのかを認識するのは難しいと思います。皆様毎日交わす挨拶が10年後には伝統に成っていたり、スポーツの結果が伝統に成っていたり、どの様な活動が次の世代に引き継がれていくのかを知ることは難しいと思いますが、胸を張って「自分達の一つ一つの活動が受け継がれていくのだ」と思って邁進願います。



我家の君へ

君と共に歩んできた13年。共に笑い、共に泣き、母も親となって今年で13歳。13年の人生の中で3度目の節目となった中学入学で、受験という道を選んだ君。父も母も驚き、戸惑い、共に頑張った1年間、入試前には体調も崩し、落胆した時もあった。

「桜咲く」晴れて県立川島中学に入学し、新しい教科、部活、友、先生との出会いに胸踊らせ、戸惑い、毎日が新鮮で、父も、母も、その話の中に引き込まれている。

これから先、将来何になっているかなんてまだわからないけど、磨かれる前の原石の様に、多くの可能性を秘め、少しずつ輝きを放つ君に、陰ながら応援し、後ろをそっと押して行こう。

とにかく、毎日元気で君の笑顔が家族の笑顔、友の笑顔、先生の笑顔。

入学後の変容にうれしく思う日々

子どもの人生にとって、中学生の時期をどう過ごすかがとても重要な時期であると思ひ、中学進学には、本人家族でいろいろと悩み考え、その結果県立川島中学校への入学を決めた。

入学の時は、親としても子ども同様、新しい生活に対する期待とともに大きな不安もあった。しかし、毎日元気に通学し帰宅すると学校であった楽しかった事・おもしろかった事などいろいろと話をするようになり、不安はほとんど少なくなってきた。今は、県立川中の先生方、友達、部活の先輩たちに温かく支えられ、体も心も以前に比べずいぶんたくましく成長してきたことをとてもうれしく思っている。

特に、子どもの様子や話から、心から親しみ、信頼をよせている先生方がおいでることを感じ、このような環境の中で中学校生活を送ることができることに感謝している。

県立川島中学生として

入学してはや5ヶ月が過ぎようとしています。初めての、汽車通学にもだいぶ慣れ、毎朝「行ってきます」と元気に登校しています。幼、小と8年間ずっと一緒だった友達と離れ、初めは、不安いっぱいスタートしましたが、新しい友達や先輩、そして、先生方の熱心な御指導で、今ではすっかり川中の生徒です。「教育というのは、良い刺激を与え続け、良い思い出をつくってあげること」と何かに書かれていました。これからの6年間、子どもにとって何が一番必要か。親としてそのために何が出来るか。ゆっくり考える時間をもち、私自身も子供と共に成長していきたいと思ひます。

早いもので、我息子が真新しい制服に身を包み、桜のトンネルをくぐったあの日から、半年が経とうとしています。日々教育熱心な先生方の御指導を賜り、毎朝喜々とした表情で登校する我子を見ておると、県立川島中学校で学べる事の喜びで胸一杯になります。思い起こせば、夫と私、そして私自身の父親もその昔、川島高校で学ばせていただきました。再び、我子と共に母校の門をくぐる事の喜びと、三世代の御縁に感慨を覚えます。この県立川島中学校の中高一貫システムで勉学にいそしみ、そして、友情を育み、これからの時代を担うにふさわしい力をしっかりと身に付けて欲しいと願っています。これからの6年間、親子共々、成長して行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

息子がこの県立川島中学校に入学して、はや半年が過ぎました。この夏休みはまっ黒になりながら部活に通っていました。まっ黒に日焼けした顔は、毎日が本当に楽しそうです。できたてホヤホヤの中学校ということで、正直子どもも親も漠然とした気持ちで受験をし、バタバタとした中で入学の日を迎えました。控めで、自分から知らない子に話しかけていくような積極性はあまりない子なので、ほとんどが初対面の子たちの中でクラスになじんでいけるのか、勉強についていけるのかハラハラしていました。でも毎日の生活の中でゆっくりと友達を増やし、部活も始め自分なりに中学校生活を謳歌しているようです。(勉強の方はいっぱい、いっぱいなのですが…。) まだまだ1年生の川島ライフは始まったばかりです。全員が元気に大きくはばたくまでどうぞ、あたたかく見守ってください。

絆 ～きずな～ vol.1

平成19年10月発行



「県立川島中に行きたい」と息子が言い出した時、正直言うと不安がいっぱいでした。遠距離通学、幼稚園から一緒に地元の友達とはなれてしまうこと、それに中高一貫教育のもと勉強を頑張りたいという強い思いがあったわけでもありません。ただ、地元の中学校にやりたい部活動がなかったから、それをやれる中学に行きたいという思いだけだったと思います。それでも、自分で考えて決めたことだからと送りだしました。入学して1ヶ月くらいたった時、息子が「学校ってこんなに楽しいんや。」と言うのをきき、県立川島中は息子にとってここちのいい学校なんだと思い、ほっとしました。毎日楽しそうに学校に行き、部活動をし、あっという間に1年間がすぎました。親友と呼べるような友達もでき、授業参観に行ってもみんないきいきと勉強しています。遠距離通学も弱音をはかずに通いました。この1年間で一まわりたくましくなった気がします。



息子が県立川島中学校に入学して1年と数ヶ月、中学校生活では半分を終えました。思えば2年前「僕受験するから。」と彼の口から聞いた時は驚き、そして不安を感じたりもしました。勉強が好きというわけでもないし、ましてや地元の仲の良い友達と別れ、新しく出来た中学校で知らない子たちとやっていけるのかと。入学式の日、期待と不安の中でも嬉しそうに彼の姿を見て安心したのを覚えています。遠足や宿泊訓練、高校生と一緒にの文化祭や体育祭などとても楽しそうでした。

人数が少ないながらも部活も一生懸命頑張っているようです。友人にも恵まれ、学校生活も充実したものになっているようです。家庭で6年間、小学校で6年間。そしてまた中高一貫の中でまた6年間と長いようで短い時間を充実したものにしてほしいと思います。そしてもっと成長してくれるのを楽しみにしたいと思います。

県立川島中学生として、早くも2年が過ぎようとしています。親も子も初めての事ばかりで、先生方も戸惑いの中での日々だったと思います。小学校からの受験を乗り越え晴れて、川島高校への道を一步一步進めていく日々毎日が成長と驚きの連続です。

今年は総体への参加もでき、それなりの成績も残せたように思います。

これからも勉強と部活に一生懸命頑張っって楽しい学生生活を送ってほしいと思います。



子どもが、県立川島中学校へ入学して約1年6ヶ月、とても月日が経つのが早く感じています。初めの頃は期待と不安の気持ちでいっぱいでしたが、毎日楽しそうに、目を輝かせて学校に行く姿と、

「僕、どの先生も好きじゃよ。授業もわかりやすく楽しいよ。」この言葉を聞いて、安心して学校へ通わせることが出来ます。先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。それと、いろいろな学校行事等で高校生の人もふれあいが出来るという所が兄妹のいない子どもにとってもよかったと思っています。この高校生の頼もしさや、優しさをみちかに感じて見習って欲しいと思っています。

これから職業体験や修学旅行などいろいろな行事がありますが、あと中学校生活は半分今まで通り何ごとにも努力し、悔いのないようにしてほしいと思います。



県立川島中学校の1期生として迎えられた子ども達。入学しだちの頃は、新しい生活や友達に馴染みながらの勉強と部活の両立。それだけでも大変だったでしょう。それに加え、遠くから通学している子ども達がたくさんいます。家に帰ると、疲れて睡魔と闘いながら勉強をしていたことがよくありました。つい最近まで、ランドセルを背負っていた子ども達がこの環境の変化の中、本当によく頑張っていると感じていました。

けれど、中学生生活も2年目に入り、自分の生活スタイルができたように思います。勉強の仕方もわかり、考査や検定合格にむけての意欲も1年目とは変わってきました。その意欲や頑張りを先生方が理解し、お誉めの言葉や励ましの言葉をかけてくださっているの、子ども達もさらに頑張る意欲が湧いてきているように思います。

中学の3年間は、過ぎ去ってしまうと、とても短かったことに気がきます。新しく創立された中学生の1期生として、2期生としてこれから毎年入学してくる後輩達に「私達がこの学校を創り上げてきたんだ。」と自慢できるように、仲間達と協力して行ってほしいと思います。



今を生きる子どもたちへ

徳島県立川島中学校PTA会長 吉岡 敏明

日頃、PTA会員の皆様には、ご理解ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

県立川島中学校も開校2年目を迎え、新たな飛躍の1年も、早、数ヶ月が経ちました。新入生を迎えPTA活動においても、新しい仲間が増えた喜びと同時に責任の重さも感じています。PTA活動も2年目に入り、今後を考えると非常に大切な1年が始まったといえます。今年度は、昨年以上に誰もが気軽に参加し、発言できる開かれたPTA活動の展開を考え、皆様方に、いずれかの部会に所属して頂きました。

今、子どもたちを取り巻く環境は、厳しい現状があります。テレビやゲーム等で、人をやたらと殺傷する場面を繰り返し目にする子どもたちが成長するとどうなるか、容易に想像できます。子どもに悪影響を及ぼす情報を与えないのも大人の役目です。私たち大人が、子どもの手本となる様、身を正していかなければなりません。

「世界陸上大阪大会から」

今大会を最後に引退を表明していた、男子百メートル朝原宣治選手のレース後の言葉は、日本中を感動の渦に巻き込みました。準決勝敗退でしたが、「自分の持っている力を出し切ったので悔いはない、最後のこのレースに出れ幸福でした。」と涙ながらに語る姿は、人の何倍もの努力を積み重ねてきた証の様に思えました。

もう一つ、感動的な場面がありました。日本中のメダル獲得の期待を一身に背負い、大きなプレッシャーの中競技し続けた、ハンマー投げの室伏広治選手です。力を出し切った清々しい笑顔、金メダルに輝いたベラルーシ、シホン選手の健闘を称え、共に国旗を掲げ場内を走る姿には、相手を認め尊重することの大切さを教えられました。

2人の選手に共通しているのは、一日一日を大切に積み重ねた結果、日本のトップアスリートとしての地位を確立したということだと思えます。

県立川中にも、一日一日を記憶にやきつけ、仲間と共に遊び、学び、時間を大切にしてほしいと願います。

最後にタレント「玉袋筋太郎著・男子のための人生ルール」から

悩みの中で自分を見失いそうな中学生たちに「キミはすごい存在。宝だってことを疑わないで。」

親父の立場から「親の期待はいくらでも裏切っていい。けど、信頼だけは裏切ってほしくねえな。」

この言葉の様に、自分自身も、子どもたちから信頼をなくすことのない様、本気で子どもたちと関わりを持ち続けたいと思います。